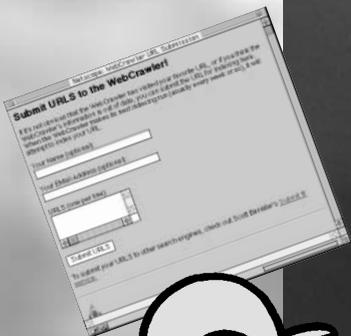
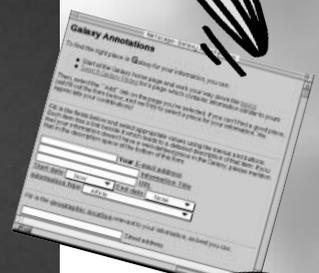
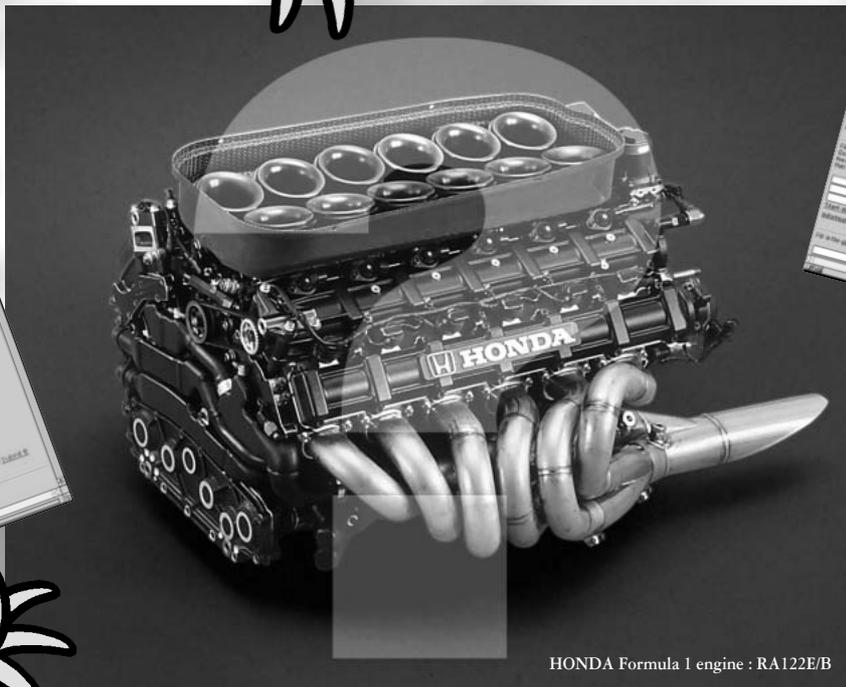
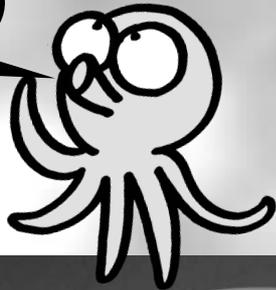


# ホームページアクセス

倍増

計画

サーチエンジン登録に挑戦



HONDA Formula 1 engine : RA122E/B

インターネットで効率よく情報を検索しようとするときに、まずお世話になるのがインターネットの電話帳ともいえるディレクトリーサービスだ。そこで膨大な数のURLが登録されたデータベースから、キーワードを元に目的の情報の在りかを探し出してくれるのが、いわゆる「サーチエンジン」である。このサーチエンジン、情報の検索だけでなく自分の持っている情報を発信する場合にも大きな力となってくれるようだ。

Nictrix/3C-Research 大橋禪太郎 (zen@three-c.com)

ホームページにもっと  
アクセスしてほしい



昨年の秋に、苦しい小遣い情勢の中で2か月間ほど悩んだ末、SLIPアカウントと14.4Kモデムを購入した。SLIP接続までの設定の苦勞や、情報量の多さからくる立ちくらみなどを乗り越えて、自分もインターネット社会の一員になったんだなと悦に入っていた。だが、ふと気がついてみると、エッチ系中心のサーフしかしていない自分に気がついた。「このままではいけない」と奮起し<sup>1)</sup>、自分の勤める会社の社長を言うくめ、「自社のホームページ」(<http://www.japan-info.com/>)なるものを作ってみた。

ところが、ホームページを作ったはいいが、アクセスログを見てみると、ほとんど自分の親戚縁者しかアクセスしてくれていない。「世間というのは冷たいもんだな」と落ち込んでしまったが、これは、おかしなところでも、アップロードしただけでは誰もサーフしに来てくれないのは当然のことであった。

そこで、さっそく我が社の「ホームページアクセス倍増計画」を立案し、実行に移すことにした。この計画にはいろいろな方法が使われたが、今回は自分のホームページの存在を不特定多数のネットサーファーに知らせる一つの方法として、サーチエンジンに登録してみた体験をご報告する。僕の体験をシェアしていただき、これからサーチエンジンに登録しようと思っている方への参考になれば幸いである。また、サーチエンジンを日頃利用している方も、登録の手順を知ることによって、もっと効率の良いサーチができるようになれば、これもまた幸いなことである。

図1 WEBCRAWLER登録画面

<http://webcrawler.com/WebCrawler/SubmitURLs.html>

(キーワードの別途入力不可)

図2 GALAXY登録画面

<http://galaxy.einet.net/cgi-bin/annotate?Other>

(キーワードが別途入力可)

数ある  
サーチエンジン



まず、登録するサーチエンジンを探してこなければならない。とりあえずYahoo、InfoSeek、Lycosなどは知っていたが、登録するからには、できるだけ多くのサーチエンジンに登録してみたかった。ニーズのあるところにはかなり高い確率でなんらかのしくみが作られているのがインターネットのいいところで、サーチエンジンのサーチなんてものがあつた。NTTのURL Square (<http://www.ntt.jp/SQUARE/>)には、サーチエンジンやURLのリストのリストがかなりあつて参考になる。

サーチエンジンにもいろいろあり、分野ごとにアルファベット順で並んでいるものやキーワードから検索するものなど、サーチのしかたもいろいろあつて、当然それぞれ登録のしかたも違う。登録の入力方法は大きく分けて2つあり、自分の登録したいURLを(1)電子メールで送るもの(Info

Seekなど)と(2)サーチエンジンのホームページに用意されているフォームに入力するもの(WebCrawlerなど:図1)がある。これはサーチエンジンごとに違うので、それぞれ個別に調べていくしかない。

さて、登録する内容だが、電子メールで登録する場合はURLのみの登録となり、フォームへ入力する場合は(1)URLだけ登録するものと(2)URLとそのURLにどういった情報があるかを示すキーワードを登録するものの、これまた2つある。

ここで、URLだけ登録する場合には、内容が分からなければキーワードでのサーチができないのではないかと心配してしまつたが、なんと、実はURLを登録すると、サーチエンジンが登録申し込みをしたURLに対して「家庭訪問」するのである。具体的には大体1週間以内にサーチエンジンが登録申請のあつたホームページにアクセスして、キーワードを自動的に見つけてしまうのだつた。いくら先生に「僕の勉強部屋には参考書がありません」なんて嘘をついても、この訪問で「お宅のお子さんの勉強

<sup>1)</sup> 奮起はしたが、エッチ系中心のサーフの習慣は依然変わっていない

表1 サーチエンジン一覧

Search Engine名	キーワードの別途入力	登録方法	登録完了までの所要日数	登録の難易度	URL
WORLD-WIDE WEB WORM	可(タイトル)	URLをフォームに入力	1週間	容易	<a href="http://www.cs.colorado.edu/home/mcbryan/WWW.html">http://www.cs.colorado.edu/home/mcbryan/WWW.html</a>
The Whole Internet Catalogue	N/A	一般からの登録不可	N/A	不可	<a href="http://nearnet.gnn.com/wic/newrescat.toc.html">http://nearnet.gnn.com/wic/newrescat.toc.html</a>
InfoSeek	不可	URLをE-mailする	1週間	やや難	<a href="http://www.infoseek.com:80/">http://www.infoseek.com:80/</a>
Lycos	不可	URLをホームページへ登録	1週間	容易	<a href="http://lycos.cs.cmu.edu/">http://lycos.cs.cmu.edu/</a>
WebCrawler	不可	URLをホームページへ登録	1週間	容易	<a href="http://webcrawler.com/">http://webcrawler.com/</a>
Galaxy	可	URLその他の情報をホームページへ登録	3日	やや容易	<a href="http://galaxy.einet.net/search.html">http://galaxy.einet.net/search.html</a>
NIKOS	不可	URLをホームページへ入力	すぐ	容易	<a href="http://www.rns.com/cgi-bin/nikos">http://www.rns.com/cgi-bin/nikos</a>
Yahoo	可	URLをフォームに入力	[不定]	容易	<a href="http://www.yahoo.com/">http://www.yahoo.com/</a>
World Wide Yellow Pages	可	URLをフォームに入力	[不定]	容易	<a href="http://www.yellow.com/">http://www.yellow.com/</a>

部屋には漫画本しかありませんね」と、ばれてしまうのである。

さらに驚いたことに、インターネットには自動サーチロボット<sup>2</sup>なる怪物が日夜休まず徘徊しているのであった。たとえばJump Startは、ホームページの持ち主が望むと望まないにかかわらず、世界各地のホームページにアクセスし、カタログに載せているのである。僕の高校のときの先生が、「いつ交通事故にあって急に手術になってもいいように、いつも清潔な下着を着けていなさい」などと言っていたのを、鼻で笑っていたが、今の僕は、同じ先生が「WEBMASTER<sup>3</sup>は、いつサーチロボットが来てもいいように、キーワードを分かりやすくしておきなさい」と言ったら素直にうなずいてしまうかもしれない(この自動サーチロボットについては当然賛否両論がある)。

表1は今回試してみたサーチエンジンである。今回は英語圏ユーザーを対象にした登録だったため、日本語によるサーチエンジンには触れなかったが、方法は基本的に同じだ。

表の難易度の部分は、サーチエンジンの先頭ページから直接ワンクリックで登録画面に行ける場合を「容易」とした。今回試してみたサーチエンジンは登録が容易にできるものがほとんどだったが、サーチエンジンによっては、登録の方法を探すだけで一苦労するなどということも少なくない。

中には、登録の方法をいくら探しても分からないのでE-mailしたら、実は一般からの登録は受け付けていないといったケースもあったので、どこを探しても登録方法が見つからなかったら、それは登録不可のだと考えたほうがいいかもしれない。また、表の登録申請から登録完了までの日数は、

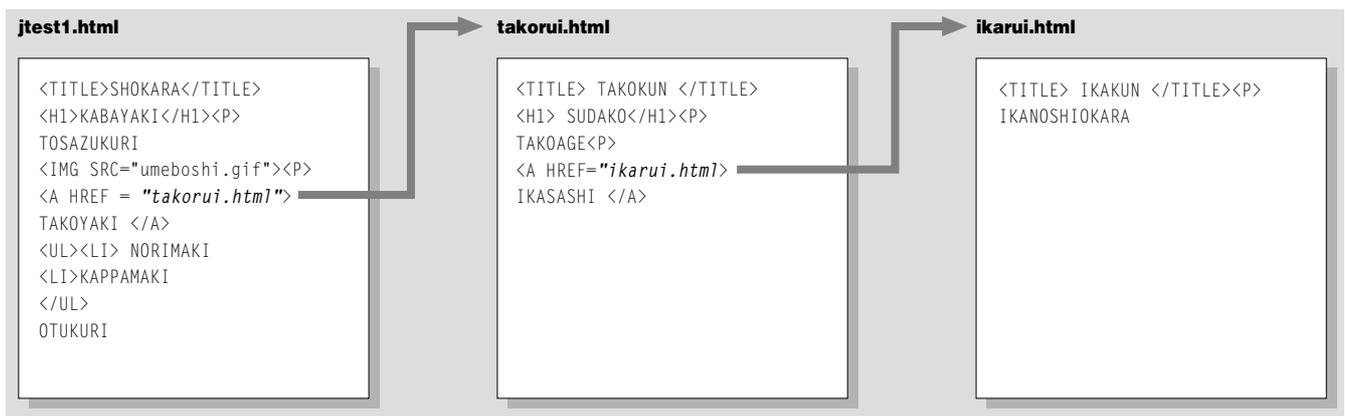
ほとんどのサーチエンジンが1週間以内と公称しているが、実際には2週間以上かかることもまれではないようだ。



さて、ホームページの登録が一段落したところで、URLだけ登録するサーチエンジンではキーワードはどうやって定義されるのだろうかという基本的な疑問が浮かんだ。そこで、3ページからなるテスト用のホームページ(図3)を作成し、トップレベルの1ページだけを登録して、どこまで自動的にキーワードとして登録してくれるのか、テストすることにした。

この3ページからなるホームページは1ペ

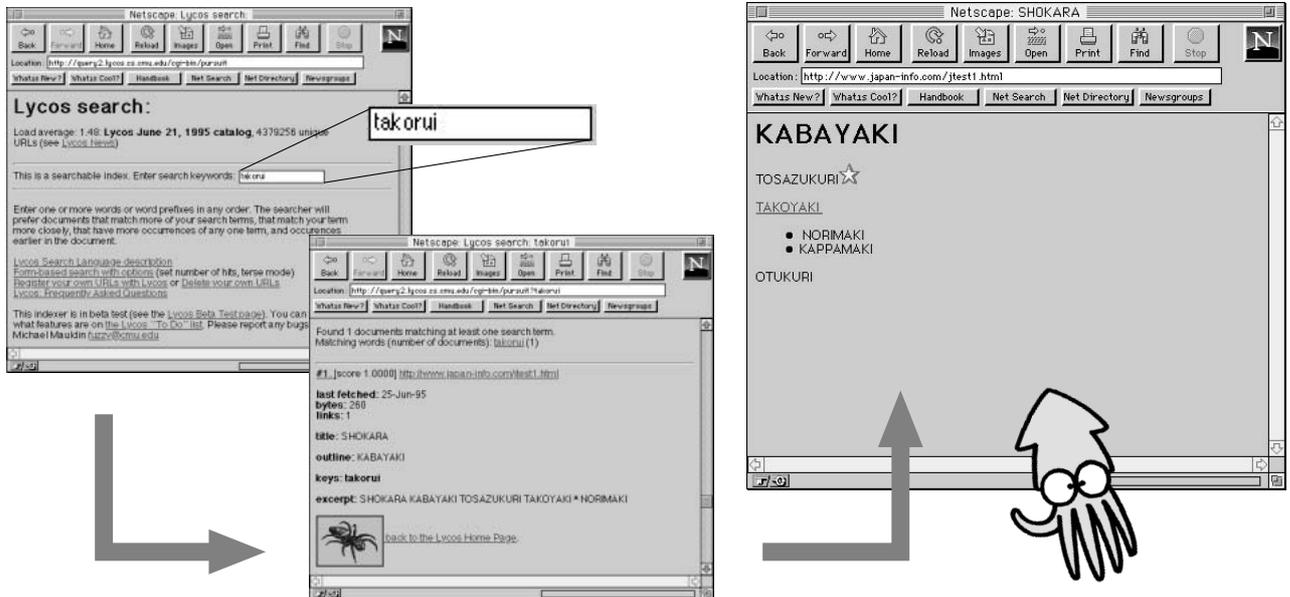
図3 テスト用のホームページ



<sup>2</sup> 自動サーチロボットの定義や現在活動中のロボットのリストは、<http://web.nexor.co.uk/mak/doc/robots/robots.html>を参照のこと



図4 「takorui」をキーワードにサーチを実行したら、いきなりヒット。めでたくテスト用ホームページが表示された。



ージ目 (jtest1.html) で2ページ目 (takorui.html) を引用し、さらに2ページ目が3ページ目 (ikarui.html) を引用している。文章の内容は、できるだけ他のホームページでキーワードとして使われていないようなものを選んだ。そして、先頭の1ページをLycosに登録してみた。

1週間ぐらいて、サーチエンジンに対してサーチをかけてみると、意外にも、1ページ目の単語はUMEBOSHI、TAKORUIなどのファイル名や、アンカーの参照ファイル名まで登録されていることが分かった(図4)。こんなに登録していたのでは、ハードディスクの容量がいくらあっても足りなくなるのでは、といらぬ心配をしてしまう。ところが、2ページ目、3ページ目の単語は1つも登録されていない。「まだまだLycos君も青いな」と思っていたが、実は登録を依頼したページからリンクされるページは1か月ぐらいのうちに再び自動的に内容を見に来て、リンクされている側のキーワード登録をするそうだ(この場合も全文ファイル名なども含めてキーワードとして登録されるとのこと)。

ファイルの中の単語がすべてキーワードとして認識されるということは、登録をする側は容易に全キーワードを登録できる反面、サーチする側にはノイズと呼ばれる不必要なサーチヒットが飛躍的に増えるといった欠点となる。今後特に登録URLの数が増えるにつれて、なんらかの手段が講じられると期待したい。たとえばギャラクシーのようにサーチの対象を本文にするのか、リンクテキストにするのか、サーチ時に指定するなどの方法があるのではないだろうか。

サーチエンジンに登録をして感じたのは、サーチエンジンは思っていたより親切に文章のほとんどすべてをキーワードとして扱ってくれるので、特にサーチエンジンのことを意識してホームページを作らなくてもよいということだった。キーワードが文章のどこかに入っていれば、必ずそれをキーワードとして認識してくれるからだ。ただ、急ぎで先頭ページにないキーワードを登録したいときには、そのキーワードの入ったページを別途登録したほうが、サーチエンジンへの登録が早く行われる。

## 最後に

インターネット上でビジネスをしようとして痛感するのは「基本発想がユーザーに受け入れられる正しいものでなければいけない」ということだ。ユーザーにとって価値の無い情報をいくら提供しても、ユーザーは見に来てくれない。しかし黙ってなにもしなくても、ユーザーに受け入れられるサービスは生まれにくいことも事実である。とにかく、まず始めてみるのが将来の成功につながるのだろう。サーチエンジンに登録をしてみて、ユーザーからいろいろなフィードバックをもらい、非常に参考になった。サーチエンジンへの登録も、あれこれ考えるよりまずやってみるのがうまく使いこなすための一番の早道なのだ。

\*3 WEBMASTER (ウェブマスター) : WWWサーバーの管理人のこと



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)